

井上博保ランサー、雨の1本勝負を制して初優勝



全日本優勝経験者の揃う激戦区S3クラスを制して地区戦初優勝達成の井上博保選手。

2月18日に開幕した今年の九州地区のダートトライアル地区戦は全8戦の開催。

この5月の一戦で早くも第4戦を迎えた。各クラスの勢力図も見えてくるシーズン折り返しの一戦とあって、ドライ路面で全開勝負と行きたかったところだが、当日の天候は残念ながら雨。降り続いた雨のためにヒート2でのタイムアップは叶わず、全クラス、ヒート1のタイム

で勝敗が決する結果となった。

このコンディションの中、DC2インテグラを駆って1分51秒990というタイムでオーバーオールウィンを飾ったのは、5番ゼッケンのN1クラス橋本英樹選手。九州を代表するトップドライバーの貫禄を見た。

「まだ僕らのクラスはグリップがあったので、うまく逃げ切れましたね。先月の全日本の1本めと似た感じだったんで、その経験も生かせま

した。ただ、その時も2本めでドライブシャフトが折れたりと最近ついてなかったんで、とにかく今日はタイム残そうという走りに徹したのが良かったと思います」。11月のJAFカップは地元恋の浦での開催。優勝候補の一人として注目の存在だ。

参加した5台がすべて違う車種とバラエティに富んだ戦いになったS1クラスはNCP91ヴィッツの松田耕平選手が2連勝を飾った。

「滑るのは分かってましたけど、出たとこ勝負と思って(笑)抑えはしなかったです。シフトミスとか失敗しましたが何とか勝って良かったです。10年以上のブランクから復活したばかりなんで、とりあえずヴィッツをお借りして乗ってるんですけど、やっぱり電子制御に慣れるのが大変で(笑)。でも最近のクルマは足もいいの



1.N1クラスは出走順が早く比較的、良好なウェット路面を走った橋本英樹選手がオーバーオールウィンを飾るタイムで優勝した。2.1番ゼッケンの安川典男選手がN1で3位入賞。3.S1クラスの中園康太郎選手は3位に入賞。



4.S2クラスはくまモンをルーフにあしらった熊本の田口和久選手が今季初優勝。5.S2クラスでは松田耕平選手が前戦に続いて2連勝をマーク。6.N1で2位入賞の大坪克典選手。7.S1では平松龍司選手のデミオが2位入賞。8.4連勝を狙ったS1南義則選手だが、2位に甘んじた。9.スバルマイスター今福和彦選手がS3クラスで2位入賞。10.S2で3位入賞の中村凌選手。11.S3の本命、岸山信之選手は3位に終わった。12.N1クラス入賞の皆さん。13.S1クラス入賞の皆さん。14.S2クラス入賞の皆さん。15.Dクラス3位入賞の五味直樹選手。16.Cクラスで3位入賞の佐伯義輝選手。17.S3クラス入賞の皆さん。18.Cクラス入賞の皆さん。19.Dクラス入賞の皆さん。20.Dクラスで2位入賞の江川博選手。21.Cクラスの2位には上原吉就選手が入賞した。22.「確実にポイントを取りにいく走りに徹したけど、タイムはもっと出したかった」。B車両まで参戦OKのCクラスは濱田隆行選手が開幕4連勝。23.Dクラスでも九州の改造車ドライバーの第一人者、橋本和信選手が開幕4連勝と磐石の走りを見せた。

で楽しいし、昔の経験も生かせるとは思ってます」。JAFカップまでには何とか自前でデミオを製作したい、と意欲を見せていた。

S3クラスでも復活組の一人、井上博保選手が、今年、全日本初戦を制した岸山信之選手ら錚々たるメンバーを抑えて嬉しい地区戦初優勝を飾った。

「先輩想いの大学の後輩の岸山君のおかげでやっと勝てました(笑)。だいぶ失敗しましたが、周りの方々がもっと失敗してくれたみたいで、タイヤの山も自分が一番あったのも勝因かな(笑)」という井上選手は3年前に20年のブランクから復活した。「エボ3まで乗って休んだので今のエボ10は別世界で(笑)。でもオフの間に走り込んだのでようやく乗れるようにな

りました。初優勝はもちろん嬉しいですけど、あと何回か今年のうちに勝ちたいですね」と笑顔を見せた。

一方、S2クラスでは2年連続チャンピオンの田口和久選手のSA仕様のEK9シビックが、4戦めで開幕3連勝中の南義則選手のSC仕様ミラージュを下して今季初優勝を果たした。

「今日負けたらまずチャンプはなくなるので気合は入れましたが、今日のこのウェット路面では、“頑張りすぎない”ことが大事なんで、抑えまくって走った感じです。ドライになるとパワ



ーのある南さんのクルマが有利なので、チャンスだった今回の一戦をしっかりと勝てて良かったです」と田口選手は安堵の表情。今季初黒星の南選手は「1本め勝負になることは分かってたけど、もうひとつ踏めなかったかな。今年はJAFカップも目標なんで、それまでクルマを壊さずに楽しみたいです」と振り返っていた。